

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市岸部中5丁目プロジェクト	階数	地上7F
建設地	大阪府吹田市岸部中5丁目	構造	RC造
用途地域	準工業地域・第2種中高層住居専用	平均居住人員	297 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年1月 予定	評価の実施日	2021年11月10日
敷地面積	2,143 m ²	作成者	関塚宏昌
建築面積	1,000 m ²	確認日	2021年11月12日
延床面積	5,204 m ²	確認者	関塚宏昌



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>標準計算</p> <p>30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 100% ☆☆ 100%超: ☆☆☆</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 2.8</p> <p>ここに数式を入力します。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.0</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 2.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>エネルギーの高効率化、躯体の耐久性の向上を基本に、標準的な取り組みが行われた計画としている。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>界壁・界床の仕様を標準以上とし、F☆☆☆☆以上の内装材を使用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>居室の天井高を高くすることにより、居住空間の広がりをもつ計画としている。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>建物を敷地境界よりできるだけ後退させ、居住空間に圧迫感を持たせない計画としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>住戸内に断熱材を施工する他、住戸に庇を設け、温熱環境に配慮した計画としている。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>躯体と仕上材を容易に分離可能な工法を採用し、資源の再利用に配慮している。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>駐車場をできるだけ確保し、かつ建物への主要なアプローチについては、自転車と入り口を別として、駐車場入り口での渋滞緩和に配慮した計画としている。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R3-変-0022

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)吹田市岸部中5丁目プロジェクト 多世代複合施設計画
	建設地	大阪府吹田市岸部中5丁目
	用途/区分	集合住宅 病院

【評価結果】	CASBEE 総合評価		B+																
①	CO2削減		3																
②	みどり・ヒート アイランド対策		3																
③	建物の断熱性		4																
④	エネルギー削減		2																
⑤	自然エネルギー直接利用		—																
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	<table border="1"> <tr> <td>太陽光発電</td> <td>—</td> <td>風力</td> <td>—</td> <td>地熱</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>太陽熱利用</td> <td>—</td> <td>水力</td> <td>—</td> <td>バイオマス</td> <td>—</td> <td></td> <td>—</td> </tr> </table>	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—												
太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—												

	エネルギー消費量の報告	対象外
--	-------------	-----

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	3.8	4
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.3	2
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.3	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	-

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		